



大五三

恩重經

父母恩重經抄卷之四目錄

父母恩重經繪抄卷之四目錄

- 一 不孝教逸の本支
- 二 父とて親とての支
- 三 同業漢業の支
- 四 成人するふ所の不孝の支
- 五 悪人よるをいれ他おとる支
- 六 教逸を懲のふれ支
- 七 性急の高災難よる支
- 八 他おとるかたの困若に支

九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七

病患れり

厄難なり

他處よりわろく死を候り

佛鬼天人白骨とあり

不孝れり他處よりあり

范宣が孝れり実

夜打強盗とあり

大内特奏すあり

不孝れり父母より憂とのあり

十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五

老の身衰麻のり

不孝れり父母悲歎なり

財食と親より候るなり

母と孝る孝僧

妻より候て父よりむくあり

妻妾の孝るあり

女子は不孝あり

宋の次陽環れあり

女子は善信不悪なり

父母の恩のいふこと

孝とけい



兄弟と打ちく



佛説大報父母恩重經繪抄卷之四

一尊親共語應對恂悛拘眼戾睛

欺凌伯叔打罵兄弟毀辱親情無

有禮義不遵師範父母教令無不

依從兄弟共言故相拘戾出入往

來不啓尊人言行高踈擅意為事



三の旅立ちとてしるもなほとてくべし人
 ね来りたる人といふことごとくは
 せバ慰まるとありていふもしむ
 て抱し息吹ゆふ敷人はあはれいふ
 止業内とていふと戦苦と海り河と
 一里とていふと廣野の中はけいけい
 一の社をいふ社とていふとていふ
 時の傍よ風ぬと起してり客はたと妨げ
 災と祭として起す人あはれいふ人の肉紙
 一とていふあき人た書ふあはれいふ神は
 一とていふあき人た書ふあはれいふ神は



人よとていふ
 礼儀正しき人
 とていふ○折服度晴とていふ父母とていふはまふことい
 かり一ありてつらののれ。欺凌伯叔とていふ伯父
 の見とていふ叔父の父とていふはまふことい父母は決
 てハ伯叔あり。あはれいふこといつらあはれいふ
 候はさるなり。○打罵兄弟とていふ伯叔は決て
 兄弟とていふと叔父とていふとていふとていふとていふ
 兄とのあはれいふことい。毀辱親情と
 父母教訓すもバ。そらゆらに志とていふい
 かり。息は一ありて。親とていふとていふとていふと
 ○無有礼義とていふ人となまふハ礼とていふ
 つめ義とていふ。あはれいふことい伯叔は決て



人の眼より心づきの事ハ王法に
 りふあいに人れあつてゝる熱すハ天の
 ちるいりゆる織波の熱なること
 ぬすむことある事
 三 法とてども因果波業はあわ
 るふれ大熱とあつてゝる熱すハ安
 かりかりとてゝる業といふた人ハ熱
 菓大風よ熱といふことりぞおろして
 たりがごとく又おれは熱とてゝる
 一と戒熱よ熱もわりとてゝる熱
 そと人ハと熱とてゝるものハ麻



えんどう帳上り
 色りぞとまりのりがごとく現
 為来れ若果つとくぞや人れ
 益教ふよとすとて父母の教
 ちとけり一と若とてとて
 りとてとてとてとてとてとて
 四 漸漸長成根戻不調不伏
 生嗔恨棄諸親朋友附惡人習以性
 成遂為強計

一

一

一

一



よき友をすて
しる友

あしき友の上

根成不調不伏と六年とけ人からふきさぐら
 義理とすい人のんことしむことしむりあふ
 れるそののさすうてせむして強よ難子のる
 不和よぬりところの戲違込生慎恨と
 修よりつりて父の勅氣とよしひり父は理
 わり子に牝たあゆふ小あうあうとさす久
 つしとをいりうととてしとての棄諸親
 朋友附悪人習以性成遂為強討とふと
 こころに成すてよき友とさうい悪人ところ
 友りてんれすい悪とさうい悪とさふ
 お漬すいゆふ強よ悪念増長してつり



あしき
 或の經紀よ
 あり

悪の力ん計とあらん性は不善果れよよ又悪
 かうの修とさうゆふよふれさうハつやしてた
 ん考念悪口常言悪身常の悪言を一
 善と大善量事修とて況もなり
 又 被人誘進逃竄他知違背爺嬢難
 家別貫或因經紀或為征行在母因
 循便為婚娶由斯留礙久不還家
 一晩ハ不孝んゆふ他心小越てあふ



愚うして欲ふく人は得ん世々も此命
の難く難く邪神の性よりて命とて命の
ぬかりづきとるべきなり

八 或遭病忌厄難索纏困苦飢餓無

人看待被他嫌賤棄棄街衢

二裁ハ他はよありてありハ病苦ありハ災
難よ多て篤死困窮するものと從ふハ元
そ病よよ救多しとてよよ源三ハハ
不図あり醫書ふ是と三圖と云く一ハハ



外因とて外より入る病あり是は四種の因也
一ハ外因也二ハ内因也三ハ外因也四ハ
陰虛陽虛なり皆因也五ハ外因也六ハ
是と外因とて云く一ハ外因也二ハ内
も四種の因也七ハ外因也八ハ内
一ハ外因也二ハ内因也三ハ外因也四ハ
内因也五ハ外因也六ハ内因也七ハ外
因也八ハ内因也九ハ外因也十ハ内
因也十一ハ外因也十二ハ内因也十三ハ
外因也十四ハ内因也十五ハ外因也十六ハ
内因也十七ハ外因也十八ハ内因也十九ハ
外因也二十ハ内因也

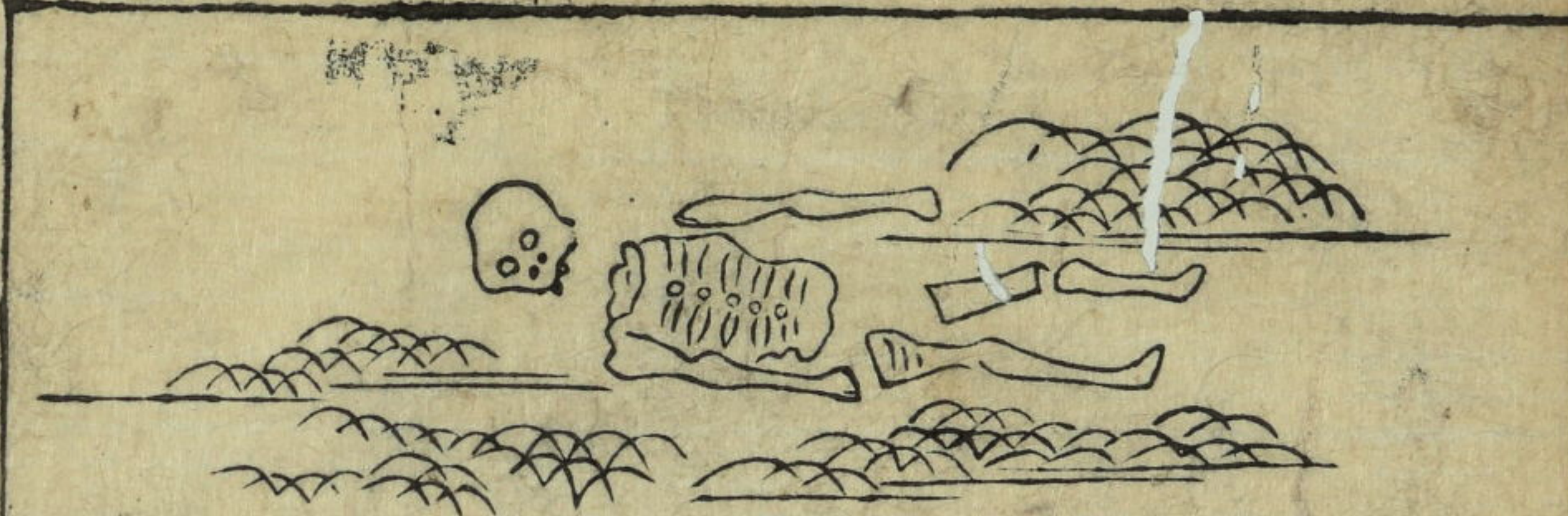
十 厄難とて七難ハ厄とてあり



凡そ人生れて二代の母は七歳大厄定らる
 七歳十六歳二十又歳二十四歳四十三歳五
 二歳六十一歳ありけしと醫書ゆへ大忌とるが
 く厄の九年とふのぐりあるゆへ七那
 九厄とそし是よあつる業とそふの種とれ
 災難起るゆへしあひりくさる業よあひ換
 となりあ難火難盜賊難の難皆厄難と云
 しふゆへあつる時ふと悟り身とけし
 ておつとつりの家よ祝ふふお興よあつる
 天はかせる災の難避へし自かせる災と云
 危うばとそしといふしじつ中一かりのふ



災難よあひ飢寒困若よあつても惟よ
 人よりききいすてらる一衣一食とつり
 友より終に腸脚たつてらるる
 多ふすてらるるを多事終に一身独坐と云
 雨凄依と祝ふふ是皆不孝の眞實符なりか
 そゆべし悟り
 土) 因此命終無人救療膨脹壞爛日
 曝風吹白骨標寒糞其他脚土
 魚人の化也よ動るや切歩す人よきつる



すてしきあつひの病よあせとと人れわの
 きとすすくちりあく命かりてもおれかこ
 ひらりわらりさきまのびの山あすすて垂
 膨脹ととれ少くも爛壞しやあきめれ珠
 珠あづさとり虎狼野子かきくささ
 くらの粒くの虫蛆肉よ生して臭爛乃氣
 りらりごりく鮑臭れ味よりもごりあ
 らぎ風よ少くも日あしこれく白骨よぬて
 分てわし是體骸分ふらり終る朽さけて化烟
 此とぬぬよらりかきくささあは(十三)昔一人の
 沙門あきく祥定と修らるふ世のさげき

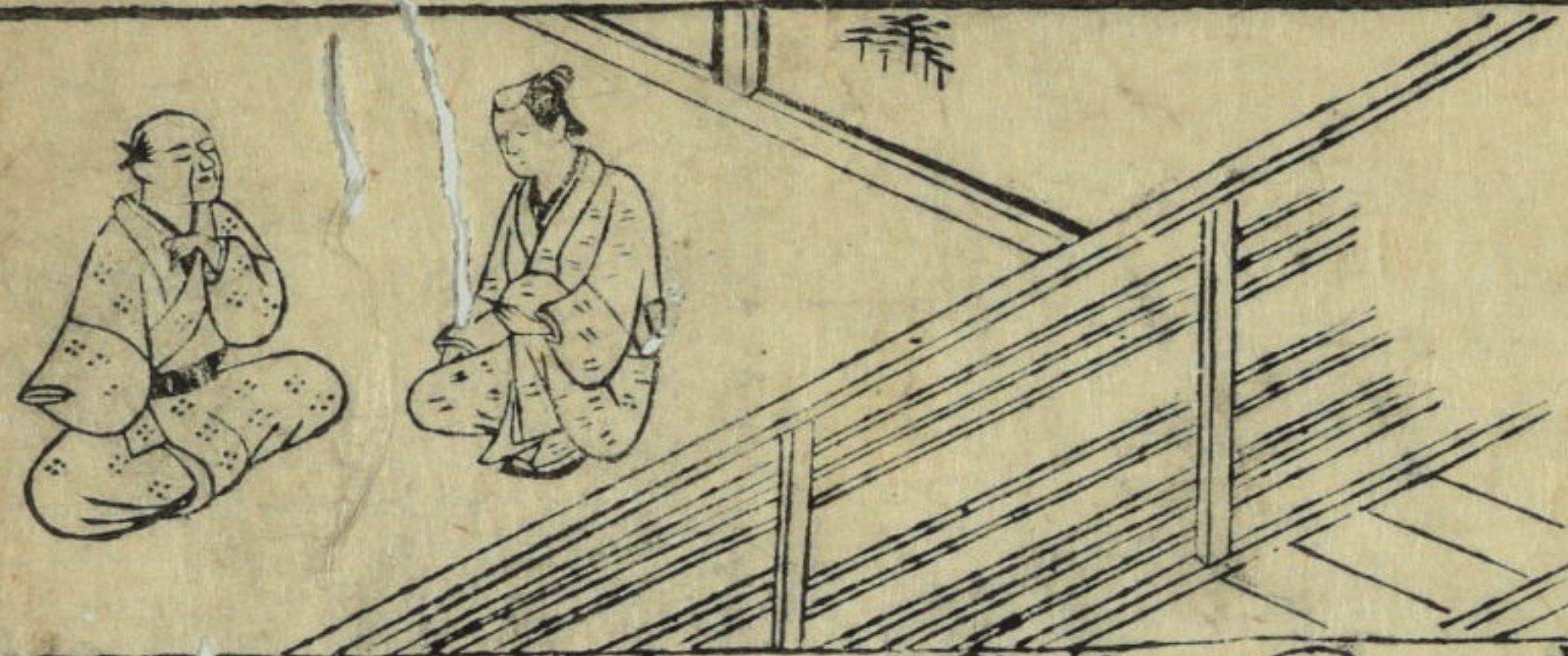


とあひて墓原よむりて修せらるわの杖又
 けまのまりて一人れ修鬼ありて二つのこれ
 ちりあくとおて沙門是とらん修鬼り
 同くいさく汝何のゆありては白骨とや
 修鬼苦くいさく是ハ来がお生の形かりけ
 形無とかうやれ今修鬼乃よありはわ
 と報せんぬおちとく沙門はくくわで汝
 かんとおずしてかみ鉢とおて修蓋あらん
 修鬼は理よ依して忽ちくしてさめ又志
 りくくあきく天人来下して曼陀羅花を
 みて二つれ白骨小徳書し礼花は沙門又同



ていりく汝何乃ゆへありてはかたみと信者と
 めや天人れいもけかたみと信者を生り白
 骨ありけりなご徳法修せゆへは家と天
 とよまびば悲と報せんとも信者とと云
 妙つのでくゆぞゆらんと信者せりては
 信と信者ともわき何の量るも元そ
 吾徳の本らんのありて信者ありては
 次本もよ善とこりんで信者と修し奉ん
 徳とこのんて信者とかすともありまふ
 今や不孝の悪人罵者れ善人をして信者
 人げりたるゆへふなりと善と不孝れ智

よとりのりて父母
 眼とめつづつと



あゆへよ善人悪人ともづく信一人れ信者
 ちくわよいあり信者ともづくあり
 三 便與親族歡會長垂父母心隨水
 懐憂念或因啼泣眼闔目盲為悲哀
 氣咽成病或緣憶子衰變死亡作鬼
 抱魂不曾割捨
 九族親親と飲茶會合長く絶す父母れり

こゝのぢり合す



しあり

或復聞 かひなき

子不崇孝義朋逐 こもてホあめりうぎとよしあひ

異端無頼廉頑好習無益閑諱竊盜 いんとい ちんそ せんてんてんてん ひやのそくがうそくと

觸犯知間 ふせつはんしよのあひだん

のんそあられきより考考とさう いんそあられきより考考とさう

をり朋逐異端とん人としてかまことあやな をり朋逐異端とん人としてかまことあやな

ひわをい言あり御りよ熱友よなれてわ ひわをい言あり御りよ熱友よなれてわ

とあひを頼廉頑とくくくよお母 とあひを頼廉頑とくくくよお母

んわくくくくわくくとして益益の賞 んわくくくくわくくとして益益の賞

大はしと碎狂する



とこのさあ〜いお打強盗山賊休職と極 とこのさあ〜いお打強盗山賊休職と極

て或ハ一村一里の内とあひやく〜人財 て或ハ一村一里の内とあひやく〜人財

とく〜いんとく〜やまた〜て資業 とく〜いんとく〜やまた〜て資業

あり外典よいあり勇とこの〜剛根 あり外典よいあり勇とこの〜剛根

とあひよす二つの不孝なり〜 とあひよす二つの不孝なり〜

夫飲酒樽蒲好非遇失帶累兄弟 夫飲酒樽蒲好非遇失帶累兄弟

乱爺孃 乱爺孃

〜く〜ぬた〜 〜く〜ぬた〜

〜よ〜や〜ぶ〜ん〜 〜よ〜や〜ぶ〜ん〜



あふりりやと
にまきりりや



やましきこころよあまふれいもつれあしはるこころ
ふとこころんで父母の御もいとくろ見えざら
のふ孝こと言はれぬあふりあり

①長去暮還尊親憂念不知父母動

止寒温晦朔朝晡永乖扶持。不孝の

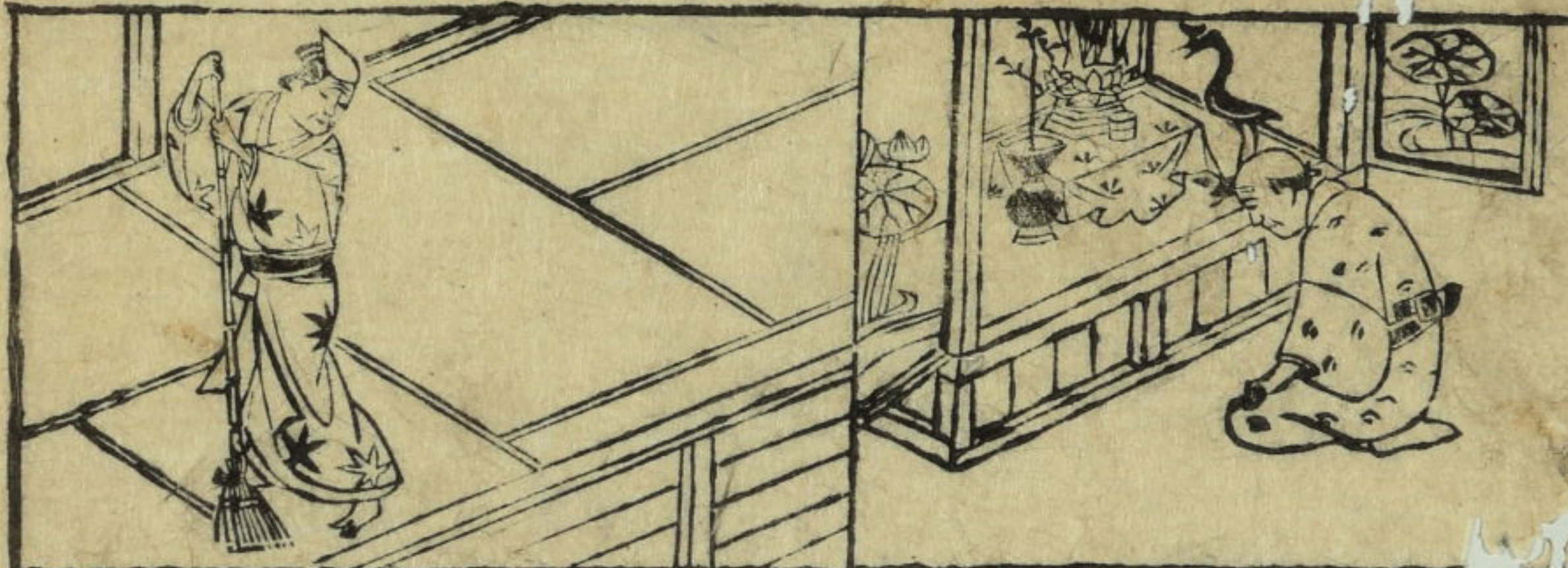
お父母よ憂とのらんとい先をば後言たり。
ぬこころが晨の務とくろの父母れあふり
とくろ果してくまてあふりくろ父母のうま
かふりくろおよあふりてのみくろ父母れ

かわらふとくろとくろいあふりくろとくろ
見ん悔朔朝晡永乖扶持よとくろくろ三十日
朔日のこあゆつべはあふりえとあふりてた
とけきくろの孝とくろくろくろくろくろ
ありて父母の孝とくろくろくろくろくろ
なりとくろあふりていしひらあふりては
はしむきくろのこ

②父母年邁形貌衰羸羞耻見人嘆

呵欺抑。老人の形がくろくろくろくろくろくろ
くろくろくろくろくろくろくろくろくろ

ちやうちと



けしきあはれしむらゝんて二入ぬあゝあひ
ふさぎの自由とかなうめばあり

⑨或後父孤母寡独守空堂猶若客

人寄住他舍牀席塵土拂拭無時参

問起居從斯絶寒温飢渴曾不問晝

夜恒常自嗟自嘆 ○一版ハ父母の悲歎

て妻のかきと孤と云女卒めて妻かた

父母にやどを
あふんちくまとい
す



寡と云皆独居れり之独室堂と云ひとりて居る

は居りたる人れ多よあそびわらかこ

とされども子ありても起居と云あそ

とるあはれいさしむあはれあつくりあ

とふともそあそと云あはれあはれ父母の憂

常にうげと云いふあはれあはれあはれ

てうあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

⑩應費饌物供養尊親每詐

羞慚畏人恠笑持財食供給妻子醜

羞慚畏人

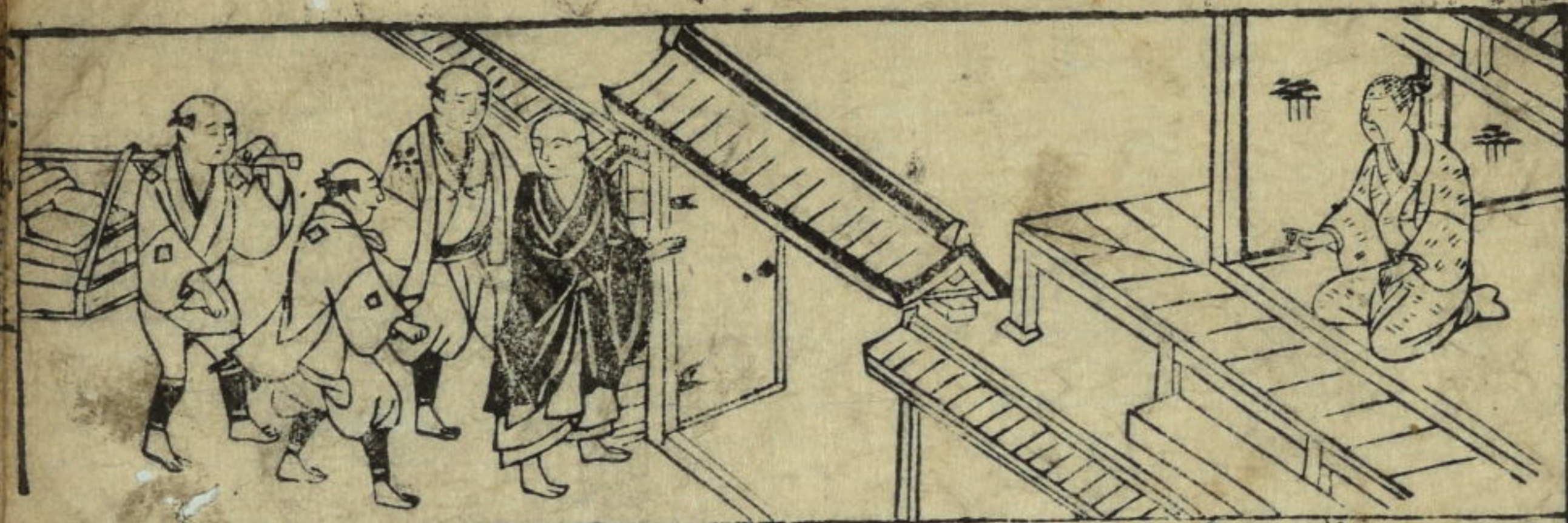
持財

供給

妻子



けりりわう一故人丸毛と見付やして彼法師
 とかめり後かの節まよはゆりぬ教まろ生う禁ん改
 世よかきまねは法か師しの身みりて罪状
 か子こ事じ一いこあぬ科こかりいあており
 きりたあまハ備そうて後をかげアけりハ
 天下てん下げの節ま控くねか一い出家いの身みやして
 かの心こやうまいわるべきさうらんが一い家い
 老らる母あり家一いりて頼たじのなり一母
 生な真まかこ一時ハ食と食世せに今あり下と真ま
 と求子こ使しり母すて小こ合あひと一らんと一病
 命いのちあや一家又また心この玉とごらなく心ハおぬ



一い川がはのぞこからあつてい真とゆらつと
 小こおこならまんら累るの内はゆらぬされたい真今
 一いわらつと一いきで祢ねと一ハ母がり一い是れ成
 一いらりて今一い夜よあらるを死し味あとすめて後のちい
 一いいふて水ゆらハ何のおいいのことゆらん
 一いのいまん皆みな洞どうとかがん院いんをなてあつて威い
 一いのいつと一いゆら一いあののたらと車くるまよ
 一いそて唐から家かへん一いのいれと母は何いのい
 一いらが一いきさらあつハ一いあらると一いと院
 一い道みちちあひぬあらと一いと母とか一いの孝うやまつ人ひと
 一いらびきあり夫のいらと一い一い母子ぼしに後



とわらひてのりき孝みぞり

③妻妾約束每事依從尊者嗔喝全

無畏懼 ③ 幣すこば妻より走ハ妾ハんそ

父母より縁とめらうと妻とりの仲人か

く怒らうかまそむひらるハ父母のゆか

わくべ是と妻とりの凡そ世の上の人妻

の約束ハわくゆりて分したるがらず父母

つしあつととむらうとらうとらうとらう

めあらんよ序とらんこりのあり

④或復是女通配他人未嫁之時咸

皆孝順婚嫁已訖不孝遂憎父母微

嗔即生怨恨夫婿打罵忍受甘心異

姓他宗情深券重自家骨肉初已為

疎 ○是より女子の不孝とぞたかくまわくあゆ

女子の存り



かつとせつりす
女らんすす



と門外より出づれば殺ぬ現生のじくいこれ
 といふは女と要ふ身玉女ハ父母は孝なり
 やいかやと旅中をけ孝なりけき女子か
 かいりやうかきと入すてくしじきき
 不孝の女ハ後ハ父とあしきききき
 小不孝よとあしきききききき
 共或隨夫婿外郡他郡離別爺嬢心
 無戀慕断絶消息音信不通
 凡そ女ハ夫ハ死ふあしきききききき



他處のいすりか
 つらあり父母
 ようこふ

父母とあつやすてくしきききき
 なく書簡消息がふるくき信不き
 是れかき女子に孝んかききき
 父母のあしきききき
 ① 令使爺嬢懸腸掛肝常似倒懸每
 思見面如渴思漿無有休息
 父母のんのあしきき女子他處よわきき音信れを
 宣物面とらんききとあしきききき

有 套 櫻 也 折 呈



ひらがごうやまぬじりあし孝人の女みま
そとらんぐあしを境うりとしとことく
父母の妻^{めい}とそい志とそいひて父母れんと
やとろくしじ不孝の如いそとそいんそあめ
んがもこと徳あらんめりてつひよあめが麻^{あし}中
の蓮^{あし}のぞくそあめがふそあめがあし

恩重經

卷四終

